

外国の一流スキー場で、こんなに音楽を流す所は殆んどない筈である。全部調べたわけではないからわからないが、もしこんなに音楽を流せば、莫大な音楽著作権の使用料を払わなければならないことになる。これは知的所有権にかかわることだが、日本は知的でない国のように、法律が遅れていて、払わなくてもいいようになっていいる。

堤 義明さんに

別の所で西部球場の笛、太鼓、トランペットの応援を禁止して下さい、と書きました。

今度はスキー場を静かに、自然を大切にしたい、ということですが。

スピーカーは、必要なお知らせなどに使い、音楽は流さないようにして下さい。

グレンデ内はすべて禁煙にして、吸殻入れを各所に明示して置き、そこだけで喫煙するようにする。

JRの各駅で既にやっていることから。

これで文明国のスキー場として恥ずかしくなくなり、日本の沢山のスキー場の模範になってもらいたいです。

堤さんならば、すぐ出来る、と思うのですが。

春の歌（早春賦——ほか）

四月になると、まだ寒い日が時々あっても、桜が咲いて本当に春らしくなる。

北海道では春や夏が短い、日本は四季がはっきりあって、その季節を歌った美しい詩や歌が沢山ある。四季のない所、特に寒い冬がない赤道近くの国々には、文化や芸術があまり発達しないようだから、やはり厳しい寒さも必要で、それが四季の大きなアクセントとなり、季節のリズムを作っているのだろう。

日本の春の歌では、古い「さくら さくら」から、唱歌の「春が来た」、滝廉太郎の「花」そのほか沢山の佳曲がある。私も四季に関係した歌をかなり多く作曲しており、その中で「夏の思い出」「ちいさい秋みつけた」「雪のふるまを」のように、一応知られた曲もあるのだが、春の歌がない。ないわけではなく、色々作曲はしているのだが、どうもあまり歌われていないのである。

中に「春を歌おう」というのがあり、これは歌詞にも自分のアイデアを十分に盛り込んだ力作のつもりだったが、人気が出ない。春は雪どけの季節で、雪どけは、緊張した国際関係を和らげる平和と未来への希望、明るさをあらわしている。

そして日本は欧米先進国にばかり目を向けて、一番近い隣国を少し軽視しているのではない。例え

ば、「春」の「スプリング」「プランタン」という英、仏語は知っていても、朝鮮語、中国語、ロシア語でなんというか、ほとんどの人は知らない。そこで「春が来た」という言葉を、近隣の三カ国語で入れた歌詞を、小林純一さんに作ってもらった。

朝鮮語で「ポミー ワッタ」、中国語で「春天来了（チェンティエン ライラ）」、ロシア語で「ヴェスナー ナスターラ」である。いずれもすっきりした発音で、「ポミー」などは、喫茶店の名前に使ってもいいくらいだ。

というわけで、NHKの「みんなのうた」として、一九七三年の春に放送されたが、評判にならなかった。小林さんがいい詩を作ってくれて、演奏も悪くなかったし、自分では割り合いうまく出来たと思ったのだが、どうも駄目である。作曲者が自分でいいと思っても、他人はいいと思わず、自分であまりいいとは思わなくても、よく歌われる曲もある。

世界中では、本当に素晴らしい真の名曲でも、埋もれてしまつて世に出ないものも沢山あるのだから、この程度では我慢しなければなるまい。それでもいつかは、もう少し歌われるのではないかと少しは希望も持っている。もしかして、サイモンとガーファンクルが歌ってくれたら……。歌い手は非常に重要な要素である。全く売れなかったレコードの曲が、別の歌手が歌つて大ヒットした例も、よくあることだ。

とにかく春の歌を色々作つたのだが、どうもヒットしない。そこでなぜかを考えていたら、ふと思ひ当たることがあつた。「早春賦」という歌が今でもよく歌われているが、これは私の父（中田章）の作

曲した唯一の知られている歌曲で、あとは何もない。歌われている曲がたった一つしかないのである。それが春の歌であるから、私はなるべく邪魔をしないで、敬意を表することにした。

などと言って、講演の時に聴衆を笑わせることがある。

夏の健康と、変な先生

夏には冷房病という変な病気がある。日本の真夏は湿気が多くて暑いから、冷房が必要な場合も多いが、それで体をこわす、というのは変な話である。

暖房病というのはあまりきいた事がないのに冷房病があるのは、暑いから涼しくする、というのでなくて、不自然に過度に冷やしてしまうからである。冷房をする人が、ただ温度を下げれば、という無神経な感覚であるのが一番困るのである。

ホテルや、レストランで、入るとゾクツとする程冷えている所がある。従業員は、きちんとしたタキシードを着て蝶ネクタイをして、動いているから丁度いいのかもしれないが、半袖でスカートの御婦人には大変具合が悪い。電車の冷房でも、満員のラッシュアワーの時も 空いている時も同じように強く冷やし、扇風機まで廻して、かえって気分が悪くなる事がある。不自然に冷たい空気に当らない事が健康の大切な要素であり、私は出来るだけ冷たい風の扇風機から離れているようにしている。しかし一日中、冷え過ぎたオフィスで働かなければならないOL達が体を悪くするのは当然である。